



リレーセッション

「東京2025デフリンピック開催を通して共生社会をめざす」

静岡県 の 取 組 報 告

静岡県健康福祉部
障害福祉課長 武田 保誉

東京2025デフリンピック静岡県開催競技概要

東京2025デフリンピック大会(全体)概要

開催時期	2025年11月15日(土)～11月26日(水)(12日間)
想定参加人数	70～80カ国・地域から選手団等約6,000人が参加(選手約3,000人)
競技種目	21競技 卓球、陸上、ハンドボール、バレーボール、バスケットボール、ビーチバレーボール、テニス、水泳、ゴルフ、柔道、空手、射撃、テコンドー、バドミントン、レスリング(フリースタイル・グレコローマン)、ボウリング、オリエンテーリング、 自転車(ロード・マウンテンバイク) 、サッカー
競技会場	東京都、 静岡県(自転車競技) 、福島県(サッカー競技 @Jヴィレッジ)

自転車競技概要

競技種目	ロード:専用自転車を使用して舗装路で競技 MTB:マウンテンバイクを使用して未舗装で競技
想定参加人数	選手100人程度
競技会場	日本サイクルスポーツセンター (伊豆市)



自転車競技について※前回大会で実施された競技種目

ロード

スプリント

1000m sprint



2選手が同時にスタートし、1,000mの距離を先着した選手が勝ちとなります。ゴール手前のスプリント合戦とそれまでの様々な駆け引きがポイントです。

ポイントレース

points race



一斉にスタートし、規定周回ごとの順位によりポイントが加算され、その合計点を競います。規定周回ごとに熾烈な順位争いがあるため、目が離せません。

個人タイムトライアル

individual time trial



定められた周回を時間差で1人ずつスタートし、それぞれの完走タイムで競います。1人で風を受けて走るため強い精神力と独走力が必要です。

個人ロードレース

individual road race



一斉スタートで着順を競います。先頭選手が空気抵抗を受けるため、後ろで体力を温存しながら勝負どころで一気に仕掛けます。個人競技ですがチームプレーが鍵になります。

マウンテンバイク

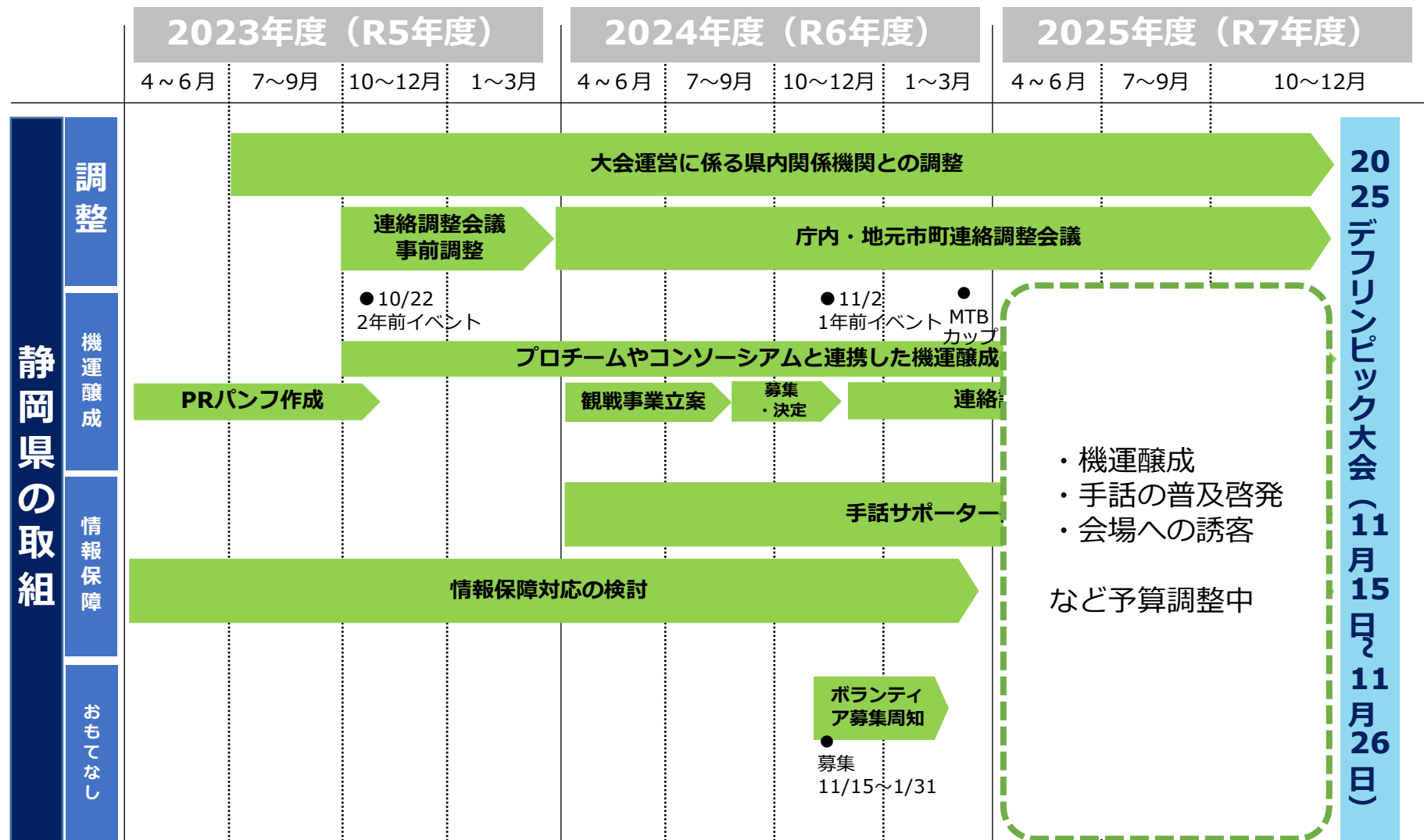
クロスカントリー

cross-country



全選手が一斉にスタートして、周回コースを走り、ゴールした着順を競います。急坂や段差を難なく越えていく姿は必見です。

静岡県の大会開催に向けたロードマップ①



静岡県の大会開催に向けたロードマップ②

	2023年度（R5年度）	2024年度（R6年度）	2025年度（R7年度予定）
調整	- 開催地周辺市町との調整、連携の依頼 - 障害福祉、教育委員会、医療、消防、警察等関係機関との連携会議開催に向けた事前調整	- 関係機関との連絡調整 - 連絡調整会議の開催（年3回程度）	- 関係機関との連絡調整 - 連絡調整会議の開催（2～3回程度）
機運醸成	・2年前イベントの開催 ・競技紹介パンフレットの作成 ・プロスポーツチームやコンソーシアムと連携し、各種イベント等でPR	・1年前イベントの開催 ・プロスポーツチームやコンソーシアムと連携し、各種イベント等でPR	小中学校の学校観戦事業・出前授業（債務負担） ・機運醸成 ・手話の普及啓発 ・会場への誘客 など予算調整中
情報保障	・会場外における情報保障策の検討 ・手話通訳者の養成	・会場外における情報保障策の検討 ・手話サポーターの養成	
おもてなし	・ふじのくにスポーツボランティアへのデフリンピック開催PR	・ふじのくにスポーツボランティアへの手話講座の実施 ・ボランティアの募集周知	
その他	・運営団体への職員派遣調整	・運営団体への職員派遣（1名） ・デフアスリートの強化活動支援	

2年前イベントの実施（ジャパンMTBカップ）

事業概要

日 時	令和5年10月22日（日）9:30～15:30
場 所	日本サイクルスポーツセンター（伊豆市大野1826）
主催等	主催：静岡県 協力：（公社）静岡県聴覚障害者協会
内 容	・ろう者等を観客として招待、手話ボランティアを配置 招待者55人 （ろう者33人、きこえる人(家族や手話講座受講者等)22人) 手話ボランティア30人 ・MTBカップ中継映像への手話MC試験導入 ・デフリンピックPRブースの出展



デフリンピック関連3ブース



手話であいさつを運動ブース

手話MCの試験的導入

- ・手話MC：早瀬 憲太郎氏（ろう者・デフ自転車競技選手(ロード)）
- ・来場したろう者の皆様にMTBの魅力を伝えるため、中継映像へ手話MC（音声のMCとは別にご自身の言語(手話)でMC）を試験的に導入。



手話MC配信（会場内）



手話MC配信現場

中継映像配信先



中継開始約1時間後から手話MC挿入 (YouTube)



1年前イベントの実施（大規模商業施設）

事業概要

- ・ 目的：デフリンピック・デフスポーツの認知度向上、手話の普及、障害への理解促進
- ・ 時期：11月2日（土）10:00～17:00
- ・ 場所：ららぽーと沼津（沼津市東椎路字東荒301-3）

1 階ひかりの広場 ステージイベント

13:15～13:45

デフアスリートによるトークショー

柔道・佐藤正樹選手（三島市在住）
やり投げ・高橋渚選手（沼津市在住）
自転車・早瀬憲太郎選手（奈良県出身）

公式マスコット「ゆりーと」、デフリンピック応援隊「ふじっぴー」も登場



佐藤 正樹選手



高橋 渚選手



早瀬 憲太郎選手



2 階 手話体験コーナー

10:00～17:00

・ 手話であいさつを運動ブース

簡単な手話講座

・ SureTalk体験ブース

開発中の手話⇒テキスト
変換アプリの体験



手話であいさつを運動

3 階 デフリンピックPRコーナー

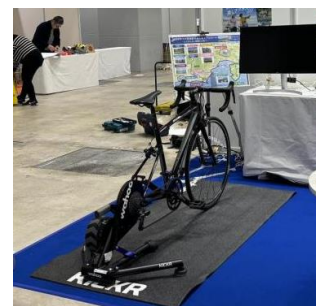
10:00～17:00

・ バーチャルサイクリング体験ブース

県内サイクリングコースの
疑似体験

・ デフリンピックPR展示

パネル展示、デフリンピック
に関するクイズも！



バーチャルサイクリング体験

各ブース巡ったらプレゼントがもらえる！スタンプラリーも実施！

小中学校生徒の学校観戦事業

事業概要

目的

世界のデフアスリートが集う日本初開催の東京2025デフリンピックを観戦することで、デフスポーツや手話等のろう者の文化、障害への理解促進を図り、共生社会実現への一助とする。

対象者

開催地周辺市町の小中学生、県内の特別支援学校（高等部含む）の児童・生徒及び引率者（教員等）

⇒開催地となる伊豆市の小中学校、隣接する伊豆の国市の小中学校
沼津市の沼津聴覚特別支援学校、沼津特別支援学校の参加が決定

計 11校 1,338人（児童・生徒等 1,215人、引率123人）

事業内容

- ① デフリンピック自転車競技を観戦する小中学生等に対しバスを手配
- ② 観戦校に対しデフスポーツやろう者文化等の障害への理解促進を図るための出前授業を実施
⇒県の外郭団体の協力を得て、デフリンピックに関する知識や手話言語を事前に学習し、観戦当日のモチベーションを高めるとともに、手話言語への理解を深めていただく。

「手話サポーター」養成講座の開講

事業概要

目的

東京2025デフリンピック自転車競技の静岡県開催を機に、手話通訳者の高齢化などの課題を解決するため、若年層に向けた手話言語の普及促進を図る

対象者

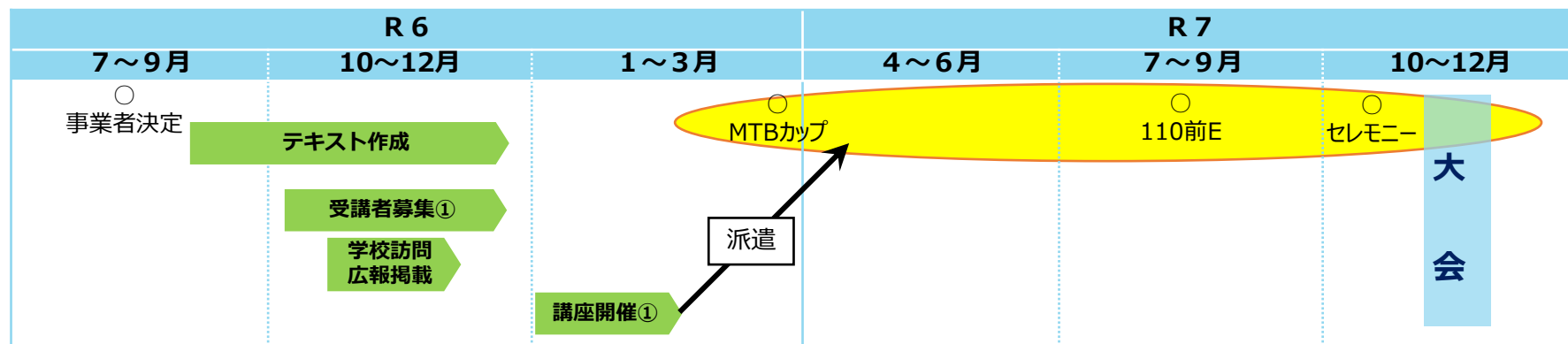
次の①及び②を満たす学生・生徒

- ①県内の高校・専門学校・大学・短大などに通学する生徒
- ②講座修了後「手話サポーター」として、東京2025デフリンピック自転車競技の開催を応援いただける方（イベントや大会での対応を含む）

事業の特徴

- ・ 6回の講座を異なる曜日で2セット開催→多忙な学生・生徒に配慮
- ・ 受講料金無料→手話言語への入り口のハードルを低く
- ・ 手話の知識は必要なし→少しでも手話に興味があればウェルカム

事業スケジュール



大会を通じた条例の推進

静岡県手話言語条例の概要

制 定 年 月

- ・平成30年 3月
- ・平成29年10月に手話言語条例案検討委員会が設置され、パブリックコメント等を経て条例案がまとまる。平成30年 2月議会にて議員提案により条例案が提出・制定

主 な 内 容

- ・目 的 : 手話が言語であるという認識に基づき共生社会を実現
- ・県の責務 : 手話を使いやすい環境整備と合理的配慮を実施、県民への理解促進
- ・計画の策定 : 障害者計画の中で施策を推進し、内容を毎年度、議会に報告・公表
ろう者や手話関係者の意見を聴取する協議会の設置
- ・施策の実行 : 県民や職員が手話を学ぶ機会の確保、手話による情報発信、手話通訳者の養成と確保、学校における手話の普及等

大会を通じた条例制定事項の推進

各種イベント の 実 施

「東京2025デフリンピック大会」開催のPRにより、手話の普及促進による共生社会を実現
⇒基本理念の県民への浸透、手話を学ぶ機会の確保、手話による情報発信

学校観戦事業

小中学校の児童・生徒に対しが手話等のろう者の文化、障害への理解を促進
⇒手話を学ぶ機会の確保、学校における手話の普及

手 話 培 養 講 座

若年層に対する手話普及により、次世代の手話通訳者養成への端緒に
⇒手話を学ぶ機会の確保、手話通訳者の養成と確保

大会開催後のレガシー構築

大会開催後のレガシー構築に向けて

手話を支える すそ野の拡大

- ・デフリンピック大会自転車競技が本県で開催されることを周知
- ・学生・児童・生徒に向けた手話言語の普及促進
⇒県民に対し、広く手話が言語であり、ろう者にとって必要不可欠なコミュニケーション手段であるという意識を浸透

若年層への 手話普及促進

- ・学校観戦事業による小中学生に対する手話への興味喚起
- ・養成講座の実施による将来の手話通訳者への魅力伝達
⇒若年層を中心に手話の魅力を伝達することによるろう者のコミュニケーションを支える手話通訳者の安定した人材輩出

県民への手話の更なる浸透を目指して

- ・静岡県手話言語条例（平成30年制定）
- ・手話に関する施策の推進に関する法案（手話推進法案）
⇒法案が成立することにより、本県の条例に関する施策の推進が加速
⇒ろう者もそうでない人も分け隔てられない共生社会の実現へ



ご清聴ありがとうございました